

教育目標「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

重点目標

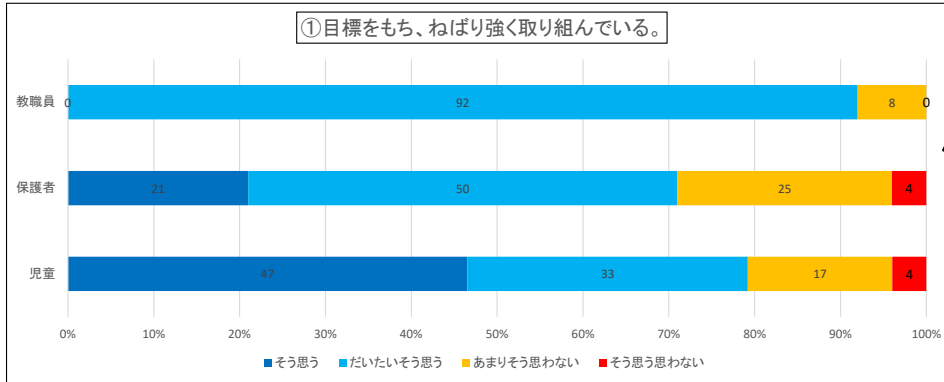
- ・ なかよく思いやりのある子
- ・ かんがえを深め学び続ける子
- ・ わたしもあなたも健康な子
- ・ がんばりがきき、ねばり強い子

※ 児童アンケート⇒「わたしは」、保護者アンケート⇒「わたしの子供は」、教職員アンケート⇒「中川小の児童は」で書き出しています。児童用は、低・中・高学年用に分けています。

「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が70%以上 ⇒ ○ 評価が良い項目
 「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が30%以上 ⇒ ● 評価が良くない項目

⇒ ……今後の取り組み

A【学校教育目標について】



項目1「目標をもち、ねばり強く取り組んでいる」

[分析]

個々に、自分なりの目標をもち、努力する子供の姿が認められました。

[今後の取り組み]

引き続き、各クラスで教室に掲示しているめあてや、キャリア教育のめあてなど、意識して生活することができるよう支援していきます。

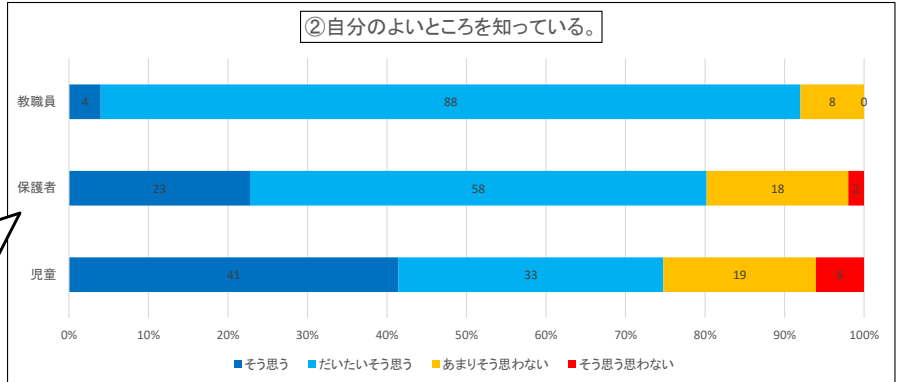
項目2「自分のよいところを知っている」

[分析]

スマイルカードの取り組みや、日頃の保護者の方々や教師の声掛けにより、子供たちが自分を客観視して自分のよいところを認められているおかげかと思えます。

[今後の取り組み]

よい表れは称揚し、価値付けてあげたり、認め合ったりすることで自信に変えていくことができると考えます。今後も、よい声掛けを意識して、子供たちのよいところを伸ばしていきたいです。



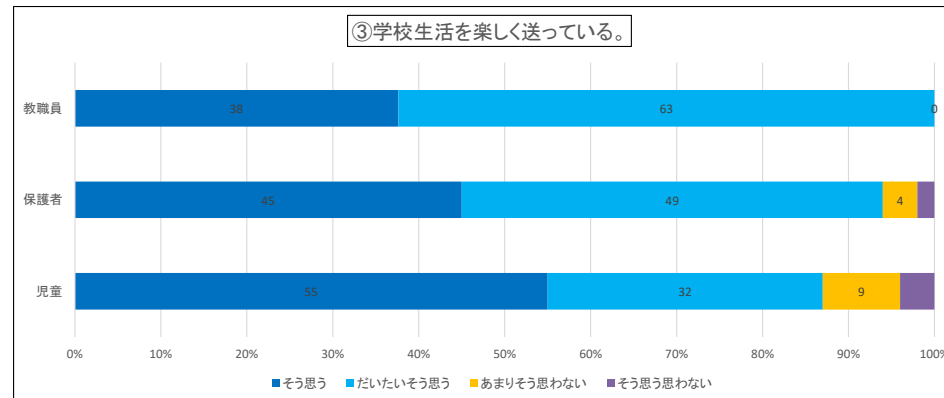
項目3「学校生活を楽しく送っている」

[分析]

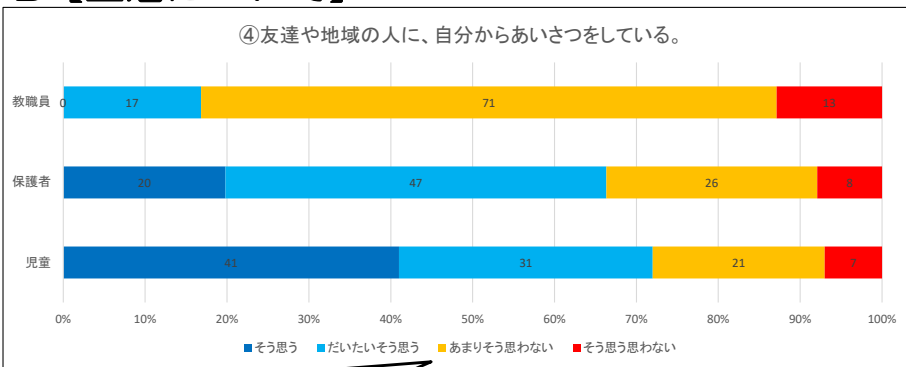
コロナ禍が続く中で、大多数の方がよい評価をしていることは、とてもすばらしいと思います。

[今後の取り組み]

できる範囲のことに精一杯取り組み、楽しく生活することができる子供たちの希望あふれる姿を、今後も大切にしていきます。



B【生活について】



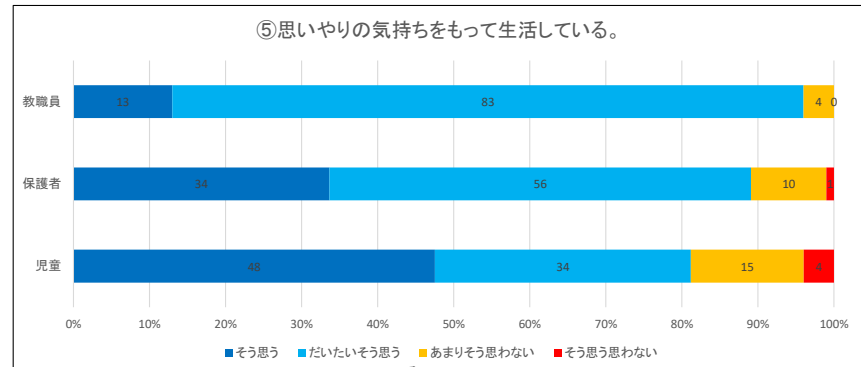
項目4「友達や地域の人に、自分からあいさつをしている」

[分析]

児童の自己評価が70%あるのに対し、保護者が67%と70%を下回り、教職員に至っては17%と、大きく差がつかました。登校班が登校時に揃ってするあいさつはおおむねできています。

[今後の取り組み]

引き続き、各クラスで教室に掲示しているめあてや、キャリア教育のめあてなど、意識して生活することができるよう支援していきます。



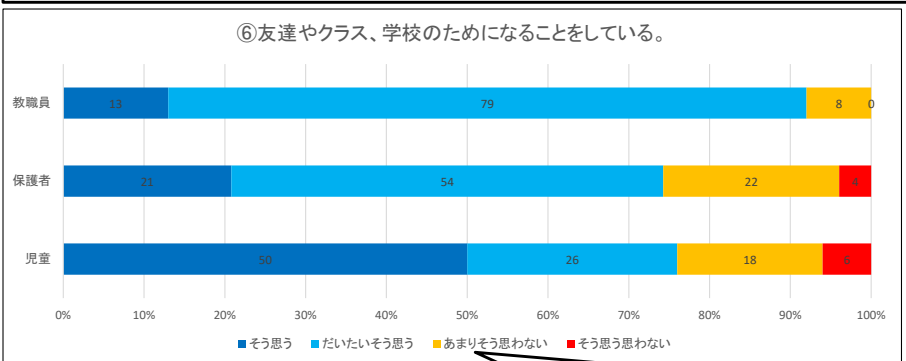
項目5「思いやりの気持ちをもって生活している」

[分析]

どのカテゴリーでも、8割以上が肯定的な回答でした。

[今後の取り組み]

引き続き、思いやりの心を大切にされた言動を認め、励ましていきます。



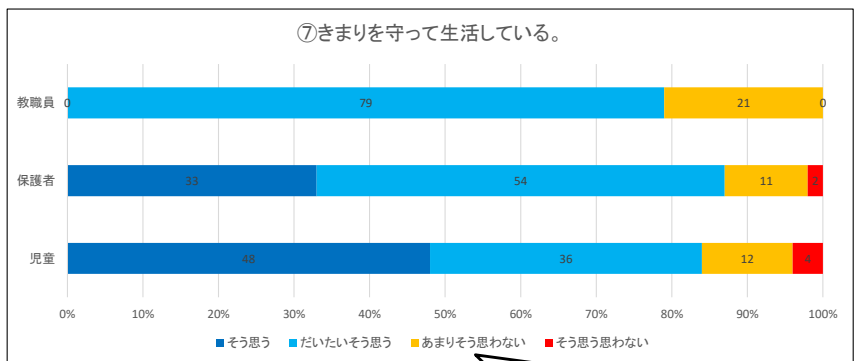
項目6「友達やクラス、学校のためになることをしている」

[分析]

児童と保護者は約25%が否定的な回答だったのに対し、教員は役9割が肯定的な回答をしました。教員が、高学年の委員会活動を始め、クラス内で自分の役割を頑張っている子供たちの姿を認めていることが、肯定的な回答につながったと考えます。逆に、学校での子供の様子は保護者が見えない部分であったり、児童がうまくできなくて否定的にとらえている面があったりしたのかもしれませんが。

[今後の取り組み]

教師が認め、褒めることで児童の自信につながり、さらに家庭でも自分の役割を果たそうとする意識を高めていくことを期待します。また、児童のがんばりやできたことを、教師が保護者に伝えていくことが必要だと思えます。



項目7「きまりを守って生活している」

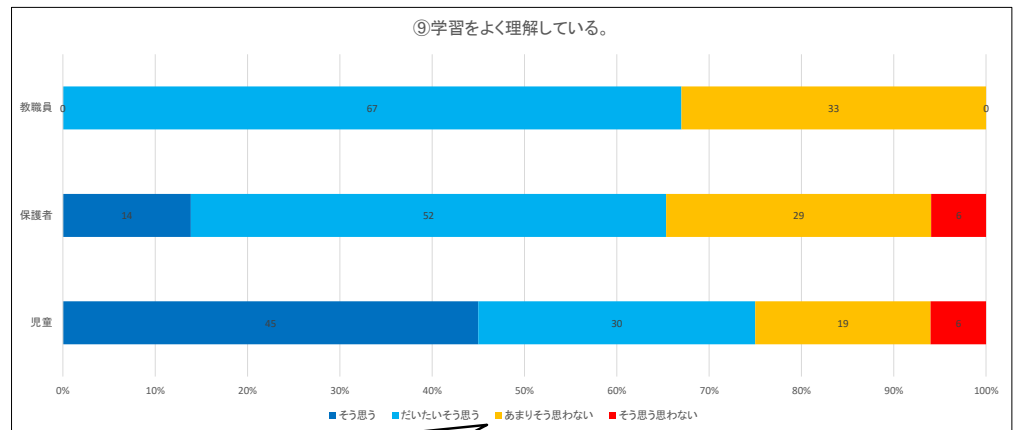
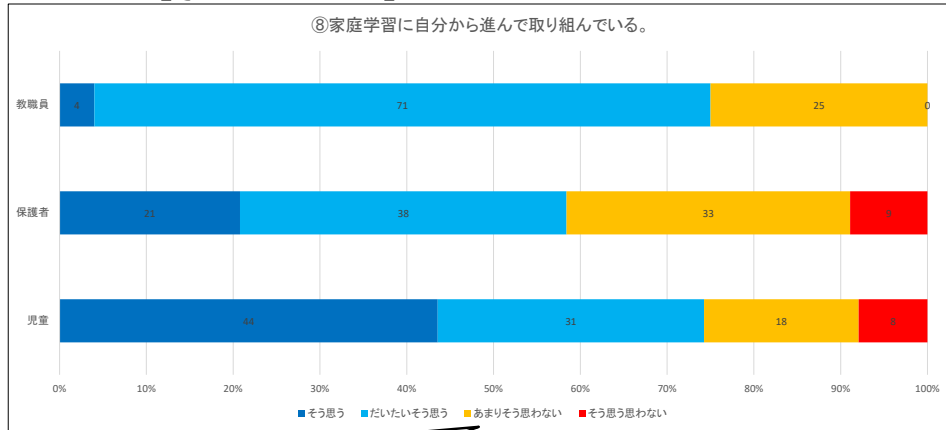
[分析]

全体の8割くらいの回答は肯定的でした。多くの児童が、きまりを意識して生活していると思います。

[今後の取り組み]

内容的には、10割を目指したい項目ではあるため、機会あるごとに全校で話をしたり、全教員が同じ姿勢で指導をしたりして意識を高めていきます。

C【学習について】



項目8「家庭学習に自分から進んで取り組んでいる」

[分析]

保護者の回答の4割以上が否定的な回答でした。家庭学習の取り組みの様子が、「自分から進んで」ではないということ(保護者にせかされてやっている)かと思います。家庭学習の、保護者のかかわり方など、発達段階に応じて考えていく必要があるかもしれません。

[今後の取り組み]

学校でも、家庭学習を行うことの大切さや効果など、きちんと伝える活動も計画していきます。

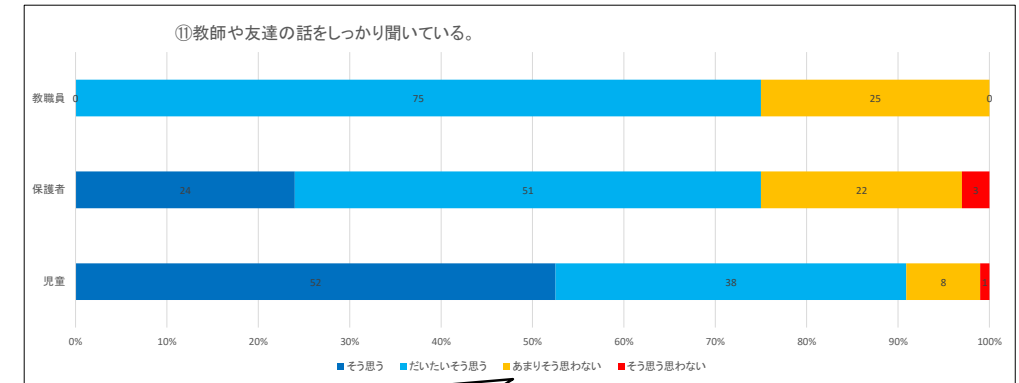
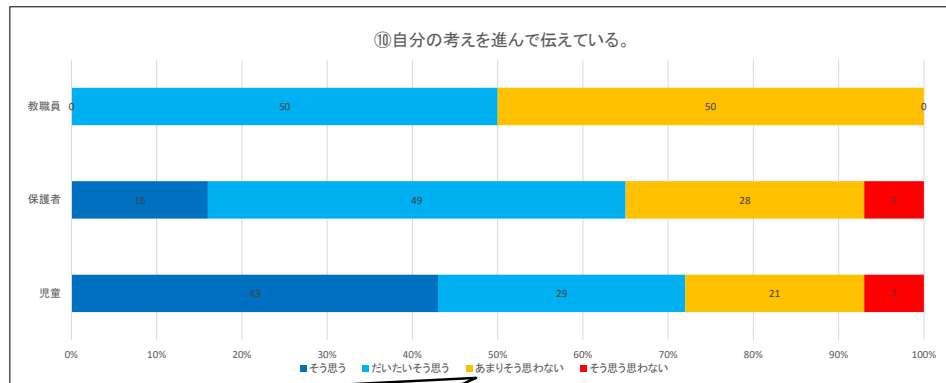
項目9「学習をよく理解している」

[分析]

保護者、教員共に3割以上が否定的な回答でした。児童の「そう思わない」の回答が低学年(9人) 中学年(6人) 高学年(2人)となっており、自己評価ゆえの基準の曖昧さが出ているのかもしれませんが。

[今後の取り組み]

学校では、教員の授業改善により、児童が「わかった、できた」という達成感を得る経験を多く積ませ、学習への意欲を高めたり、進んで学ぶ姿勢を身に付けさせたりしていきたいと考えます。家庭でも、お子様の頑張りを認め、意図的に励ましてあげてください。



項目10「自分の考えを進んで伝えている」

[分析]

本校の今年度の研修テーマである、「『自分から』かかわり、『自分の力』で学び続ける子の育成」を目指すために、この「自分の考えを進んで伝えている」という項目は重点として取り組んでいることの一つです。「自分の考えを伝える」手段は多岐にわたっており、話す・書くことに加え、Chromebookでアプリを使った協働学習も含めると、子供たちは様々な場面で表現活動を行っています。しかし、アンケート結果から分かるように、できていないと感じている割合が大きいです。

[今後の取り組み]

今後も、授業改善をしていく中で「自分の考えを進んで伝える」活動を意図的に組み、伝えることのよさを実感させていきたいです。また、日々の教育活動の中で自分の思いを表現できるように褒めたり励ましたりしながら

項目11「教師や友達の話をしっかり聞いている」

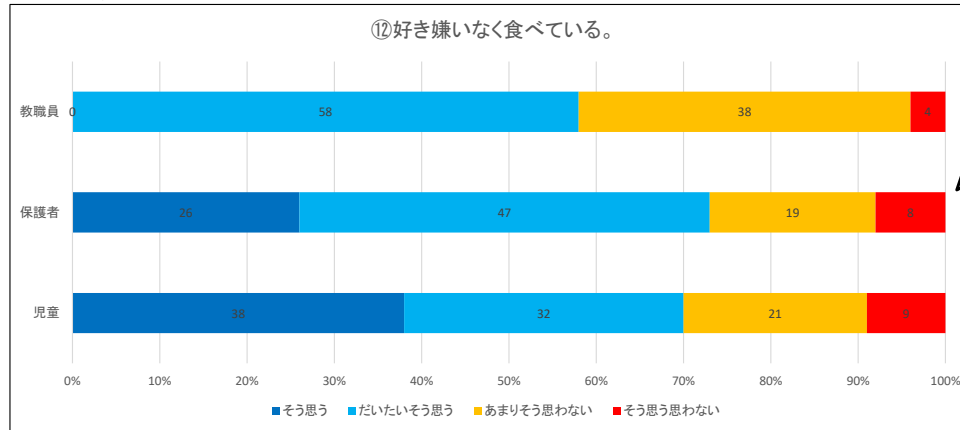
[分析]

「聞く」ことの大切さは、今年度も各クラスで指導しています。全体的に肯定的な回答が多かったのは、日々の積み重ねによる成果かと思えます。

[今後の取り組み]

今後も、意識して「聞く」ことができるよう、継続して支援していきます。

D【健康・安全について】



項目12「好き嫌いなく食べている」

[分析]

児童の自己評価と教員の回答の30～40%が否定的だったことから、家庭での好き嫌いよりも、学校での好き嫌いの方が多いたことが予想されます。給食では、いろいろな食材が提供されます、だんだん改善されてきたようですが、まだ全体的に給食の残食が多いようです。

[今後の取り組み]

食育の観点からも、バランスよく、いろいろな食品から栄養を摂ることの大切さを伝えていきたいです。

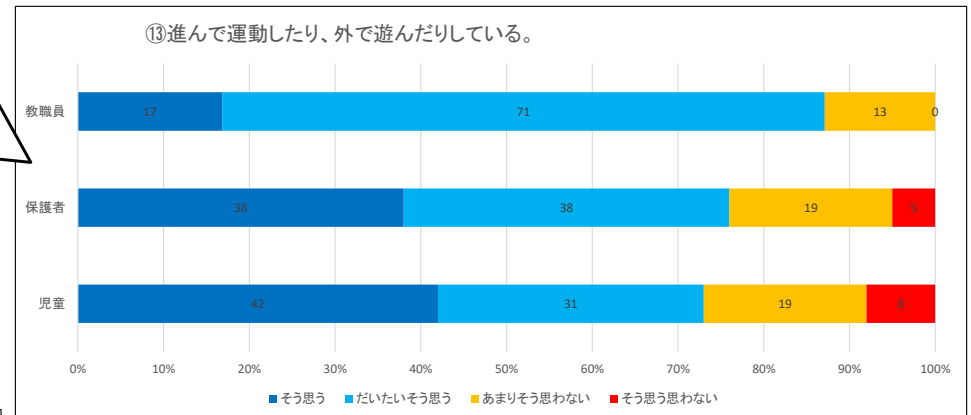
項目13「進んで運動したり、外で遊んだりしている」

[分析]

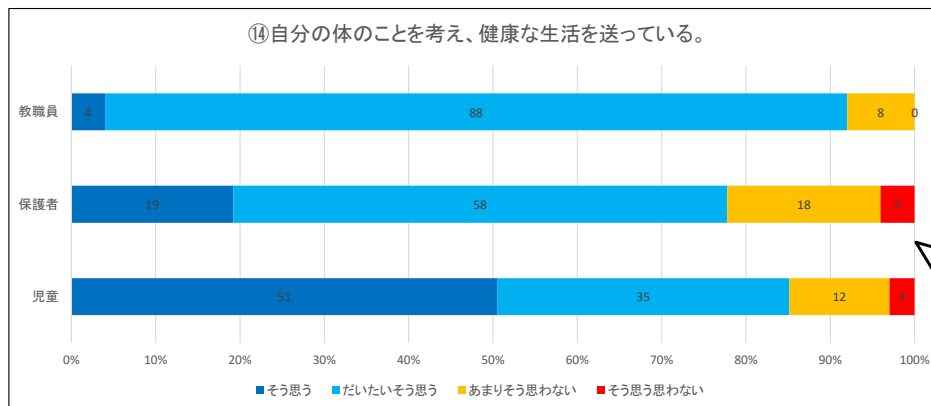
個人差はあるにしても、休み時間には多くの児童が外で元気に遊んでいます。

[今後の取り組み]

コロナ禍で子供も運動不足になりがちなので、今後も意識的に声掛けをして安全に楽しく運動する機会を確保していきたいです。



⑭自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。



項目14「自分の体のことを考え、健康な生活を送っている」

[分析]

自分で体調を管理する習慣が、コロナ禍の副産物としてついてきたのかもしれませんが。感染症予防や、熱中症予防など、個人で意識しなくてはいけないことを理解し、マスク・手洗い・うがいに加えて密を避けるなど、意識することができるようになった子供が増えていると思います。

[今後の取り組み]

今は、行動制限が緩和されているので、そういった予防・対策がいい加減にならないよう、注意してみたいと思います。